
翼～誰も代わりにはなれない～

ルキア・J・クライン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

翼〜誰も代わりにはなれない〜

【Nコード】

N6678T

【作者名】

ルキア・J・クライン

【あらすじ】

生前(?)の記憶を失い現世で生きてきた上杉三郎景虎こと仰木高耶は直江信綱に出会ったことで記憶を取り戻しつつあった。そんな時、高耶の友人でもあり腐れ縁の成田 譲は高耶の家に遊びに来た。そして、高耶がどんどん別の人間になっていく様子に不安になっていた譲はある話を切り出した。

(前書き)

原作：炎の蜃気楼。 時間枠ぶっちゃけごちゃまぜのシリアス話とな
っております。 一部オリジナル設定もごちゃまぜしています。
純粋な炎の蜃気楼ではないのでご了承くださいませ。

親鳥の大きな翼。

巢からでたことのない雛にとって、絶対に安全で安心する世界。飛び方も知らない雛を親鳥は心を鬼にして、雛を巢から落とす。落とされた雛は遠くから見守られている事も知らず、親鳥を探して泣きわめく。

泣いても鳴いても、守ってくれないと解ると雛はまだ飛ぶこともままならない翼を少しずつ、確実に動かして親鳥のいる大空へ飛び立つていく。

そして、生きるために飛んで行くのだ。

けれど、飛ぶことを覚えぬままの落とされは雛は、力尽きて動かなくなるだけ。

親鳥は飛んだ小鳥だけを連れて、大空へ飛んでいく。

だけど、俺は……あの翼に捕まってから独りで飛ぶことができなくなった。

譲は高耶の家に遊びに来ていた。といっても、松下にある実家ではなく、橘不動産会社が経営するマンションのひとつ、現在、高耶と直江が二人で住んでいる高級マンションだ。

「ねえ、高耶。俺が直江さんの代わりにはなれないの？」

直江が力が衰え始めて、差ほど経っていない頃。直江に関して悩む高耶を見ていられなくなった譲がずっと考えていたことを口にした。一瞬目を見開いた高耶は首を横に振る。

「・・・そう。高耶にとって直江さんって何？」

景虎なら直ぐに答えられたかもしれない。でも、高耶としての直江は。

「翼だ」

しばらく考えて、窓から見える鳥を見て答えた。

「大きな翼。景虎の記憶がなかった俺は今まで守る事はしても、守られる事はなかった」

会社がつぶれ、酒に溺れるようになった親父。苛立ちの先にはいつも母親が、そしてまだ幼かった高耶や妹の美耶に向けられていた。母親はそんな親父に耐えきれなくなってひとり、仙台へ再婚して行ってしまった。幼い高耶と美耶を残して。

自分より幼い美弥を高耶は懸命に守った。どんなにぶたれようとも、どんなに殴られようとも、美弥を抱きしめて絶対に傷が付かないように背中を守っていた。

だから、いまだに高耶の背中にはその時の古傷がたくさんある。

守る者はある。でも、“自分”が守られる事はなかった。

アイツと会うまでは・・・。

「俺が高耶として初めて会って怨霊共に襲われて。その度に俺を守るアイツの行動が、意味が分からなかった。自分の身をていしてまで俺を守ることが……」

「うん」

遠くを見つめる高耶が懐かしむように目を細める。

「守ることには慣れていても、“高耶”にとって守られることに慣れていなかった」

俺はうつむいて自分の手を見つめる。

「だから俺よりも、自分を優先しろと言いたかった。なのに……直江は……」

……そうしなかった。

続く言葉が出てこない。でも譲にはそれが伝わったようだった。

高耶は広げていた手を握る。

「俺は……?」

直江が翼なら、俺は何なのだろうか。
譲はずっと、ずっと訊きたかったことを。

「譲は“家”だ」

高耶は大きく息を吸い込んで答えた。

「“家”？」

高耶はまっすぐに譲の目を見つめた。濁りのないまっすぐな瞳。

「ああ。俺にとって……高耶にとって、譲は俺が帰ってくる家なんだ。帰る場所だ」

家……帰る、場所。

譲は高耶の言葉一つひとつが心に溶け込んでいく。

「譲がいると俺は帰って来たって思えるんだ。千秋やねーさん。色部さんに……もちろん直江も。夜叉衆に戻っても帰って来たと思える。でも、家のように向かい入れるものじゃない」

だから、

「譲には待ってて欲しいんだ」

高耶は譲をゆっくりと引き寄せる。

「護らせてくれ」

額と額をくっつける。

「俺に」

伝わるように。

「……………」

譲の顔が涙で歪んでいくのが解る。

「……………ずるいよ。高耶は……………」

前世の記憶を持つ譲にとって高耶は特別な存在であり、かけがえのない大切な人だった。

生前、全てを知った(……………)(景虎と共犯し、ひとつの戦を仕組んだ。

それは、“夜叉”の始まりであり。長きにわたる延長線の通過点だったかもしれない。

でも、それでも。知っていたからこそ。未来に賭けた。

ひとりにしない

笑って欲しい

死にたくない

生きて欲しい

生きたい

たった一人を愛した。

憎みもした、対立もした、否定もした。

でも、本当は、羨ましかった。

だから。

今度こそ。

桜に誓って。

END .

(後書き)

あとがき。

「炎の蜃気楼」初パロでございます。
ぶっちゃけ、初めはこんな終わり方ではありませんでした。書いて
いる内に変わってしまった(ノー；)

時間軸が若干おかしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6678t/>

翼～誰も代わりにはなれない～

2011年10月8日18時47分発行